

⑥【新潟県立新発田病院】

住 所	〒957-8588 新潟県新発田市本町 1-2-8		病床数：478床
診療科目	内科、循環器内科、脳神経内科、外科（乳腺外科、消化器外科）、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、小児科、産婦人科、精神科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、皮膚科、救急科、病理診断科		
研修責任者名	塚田 芳久（院長）	連絡先：kensyu-center@sbthp.jp 0254-22-3121（代表）	連絡先担当者名：川合 弘一（診療部長兼教育 研修センター長）
新臨床研修 医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成23年度：2人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：1人、27年度：1人、28年度：1人、29年度：1人、30年度：1人、令和元年度：2人、2年度：2人 ・その他プログラム採用 平成23年度：12人、24年度：12人、25年度：13人、26年度：15人、27年度：16人、28年度：15人、29年度：14人、30年度：15人、令和元年度：17人、2年度：19人		
研修受け入れ可能診療科※	学会認定専門医数	学会認定指導医数	
必修：内科（消化器、循環器、呼吸器、腎臓、血液、代謝内分泌、脳神経）、救急科、外科（消化器、呼吸器、心臓血管、乳腺）、小児科、産婦人科、精神科 選択研修：泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、整形外科、脳神経外科、病理診断科、麻酔科	内科（総合内科専門医）18人、内科（循環器）3人、内科（腎臓）3人、内科（脳神経）3人、内科（肝臓）4人、外科8人、整形外科7人、産婦人科3人、精神科1人、病理2人、救急科3人	内科（内科）21人、内科（呼吸器内科）2人、内科（腎臓）3人、内科（脳神経）3人、内科（循環器）2人、内科（透析）1人、内科（感染）1人、産婦人科2人、小児科6人、整形外科7人、精神科1人、病理2人、脳神経外科4人、皮膚科1人、放射線科3人	
<b>施設の概説・特徴</b>			
当院は、新潟県北部に位置し、新発田・村上地区の広域基幹病院としてこの地域の救急・高次医療を担っている。平成18年に病院を新発田駅前に移転、救命救急センターを併設し、年間6,000台を超える救急搬送、15,000人以上のウォークイン救急患者数があり、1次から3次救急までの幅広い救急診療を経験できる。また、坂町病院、十日町病院等の地域医療・一般外来研修が可能な施設と連携しており、プライマリケアの研修環境にも恵まれている。			
<b>研修受け入れ可能診療科の説明</b>			
内科：循環器は心臓カテーテル検査、インターベンション治療に力を入れている。消化器は、肝胆道系疾患の診療、消化管内視鏡治療などを幅広く行っている。腎臓内科は、最近増加している糖尿病性腎症による慢性腎不全に対して暑気の段階からの包括的治療を行っている。血液は、血液3規制主要に大して幹細胞移植治療を含む積極的治療を行っている。代謝内分泌は1～2週間の糖尿病教育入院を行っている。呼吸器は肺癌の集学的治療（診断、外科的・内科的治療、放射線治療）に対応可能。 外科◆：年間手術件数は900件程度で、そのうち緊急手術は18%を占める。胃癌、大腸癌は100例を越え、手術から化学療法、終末期医療まで行っている。小手術から緊急、癌治療まで幅広い研修が可能である。 心臓血管外科・呼吸器外科◆：心臓血管外科は、心臓血管手術200件、呼吸器外科は呼吸器手術100件を行っており、研修医にも執刀の機会がある。 整形外科：県北地域全体の救急外傷に対応しており、特に高齢者の大腿骨近位部骨折の手術件数は年間300件に及んでいる。他に、人工関節置換術や脊髄手術など多岐にわたる手術を行っている。 消化器は肝胆道系疾患の診療、消化管内視鏡診断・治療などを幅広く行っている。 呼吸器は肺癌の集学的治療（診断、外科的・内科的治療、放射線治療）に対応可能。 脳神経外科：急性期治療を中心に、脳血管内手術をふくめ阿賀北地域の脳神経外科のセンターとして機能している。 脳神経内科：県北全域の脳血管障害、神経免疫疾患、神経変性疾患に対応。急性期脳梗塞への脳血管内手術を脳外科と協力して行う。 精神科：地域の拠点として、精神科一般と救急、リエゾン、緩和ケア、学習会など幅広く深く、且つ積極的に診療を行っている。 小児科：県北の基幹病院として新生児集中治療室と救命救急センターが設置されたため、小児期全般にわたって1次から3次救急まで幅広い領域の研修が可能である。また検討会、勉強会を積極的におこなっている。 産婦人科：地域周産期センターとして種々の異常妊娠・分娩を扱っている。年間分娩数は約300件。 麻酔科：手術の麻酔業務、ペインクリニックを行っている。手術室の運営、救命救急センターの運営管理にもあたっている。 泌尿器科：悪性腫瘍、尿路結石症、排尿障害、泌尿器救急疾患など幅広い研修が可能である。年間手術件数は体外衝撃波破砕術も含めると約700件。 耳鼻科：後期研修で習得すべき副鼻腔・頸部手術手技や耳鼻咽喉科症例を幅広く経験できる。 救急科：救急車の初期対応および蘇生後脳症、多発外傷、敗血症、中毒などの主科として診療している。 放射線科：一般画像診断業務だけでなく、放射線治療、インターベンション治療も行っている。 病理診断科：術中迅速診断をはじめ広く病理診断業務を行っている。月1回CPCを実施している。			
<b>研修の概説と特徴</b>			
医師としての基礎づくりのため、内科と救急科から研修は始まる。内科は各臓器別（循環器、呼吸器、消化器、腎・代謝内分泌、血液、脳神経）の診療科を5週ずつローテートする。その後外科、整形外科、脳外科、麻酔科、産婦人科、小児科、精神科、放射線科をまわり、2年目の後半より選択研修が可能となる。途中、地域医療・一般外来研修として、坂町病院、十日町病院で10週間の研修を行う。研修の評価は、レポート、モーニングカンファレンスでの症例提示内容などで評価している。			
<b>研修医の当直</b>			
当直は、研修1年目から月に2～3回程度、指導医とともに、副当直として研修当直する。積極的にファーストタッチを行い、その都度指導医からのフィードバックを受ける。内科系と外科系の上級医と一緒に当直であり、コンサルテーションしやすい状況にある。当直翌日が平日の場合、原則的には午前勤務後に退勤となるため、休息や学習時間を確保できる。			
<b>処 遇</b>			
●給与：1年次（月額基本給）350,000円、2年次（月額基本給）400,000円 （諸手当）通勤手当：上限44,100円（80km超）、距離に応じた区分により支給、時間外手当：月平均120,000円（時間外勤務時間に 応じ支給）、当直手当：1年目10,500円/回、2年目21,000円/回（概ね4回） ●食事：昼は院内の食堂からの出前や売店から購入、朝、夜は院内のコンビニエンスストアの利用が可能。 ●宿舍：借り上げ宿舍あり 住居手当あり（支給額は住宅のグレードにより異なる）、上限27,000円 ●居室：有り（研修医専用の大部屋） ●図書・文献：図書室で各ジャーナル、学会誌の閲覧が可能。インターネット接続環境があり、Medline や日本語文献検索が可能。 ●インターネット環境：各デスクより可能。			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和4年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を習得する。